

孫に語る歴史

上巻

谷川 修

人間はどんなところに生まれて、
生き物たちの中でどんな位置にあって、
人間と呼ばれる者になってから、
どんな道を歩んできて、
どんな人間関係をつくりだし、
どんな社会ができて、
ひとりひとりはどうな生き方をしてきて、
今のようになったのだろうか。

これからどんな生き方ができるだろうか。

はじめに

隼くん、優さん、君たちは今日何をしようとして、どんなことに出あったらうか。学校で何を学んで友だちと何をしたらう？ 家族とはどんなことが話題になったらう？ いつも通る道や街路樹や近くの公園も、君たちの活動に結びついているはずだ。日々が積み重なっていくと、暮している町や市のできごと生活にかかわっていて、名前を知らない人々ともつながっていることが分かってくる。新聞やテレビのニュースを見ていれば、君たちの住んでいる日本の動きが、君たちの家族の生活に関係していることに気づくだろう。今では交通や情報の技術が進んで、世界中のできごとが君たちに結びついているのだ。

若い君たちは自分の成長を実感しているだろう。一人一人の人間が歳を取るから、世の中の人々の関係も変化していく。つまり、社会は時間とともに変わっていく。おじいさんが子供の頃には、家にはテレビも冷蔵庫も洗濯機もなかった。人間たちだけでなく、人間をとりまく物も日々置きかえられていくのだ。今よく耳にする環境という言葉を使えば、人間をとりまく環境を含めて社会は、時間が進むにつれて姿を変えていく。日本列島では、一万年近くも前に使われていた縄目のもようをつけた土器が見つかっている。その頃からのことを考えると、この列島に暮らす人々の生活がどれほど変わってきたかに、君たちは驚くだろう。その変化を追いながら考えるのが「歴史」というものだ。

おじいさんが君たちに昔のことを話すように、家庭や村々で昔のできごとを語り継ぐことが古くからあった。その昔話は、語り伝えるうちにおもしろく変形されるということが起きる。中には神話に近い話まである。人間が文字を発明して、社会がある程度発展すると、できごとを文字に記録するようになる。そうして、書かれた歴史が残ることになった。たとえば、中国ではずいぶん古くから、広い地域を支配する国々で、専門の担当者がいて国のできごとを記録していた。漢の時代に司馬遷という人が、それらの歴史記録をもとにして『史記』という歴史書を書いた。古代ギリシアでは、トゥキュディデスという人が、自分が見聞きしたできごとを歴史書にまとめている。それらは、単に起きたできごとだけでなく、人間がどんな者であるかまで描き出すほどすぐれた書物だ。そういう書物がお手本になって、その後たくさんの歴史書が書かれてきた。

君たちは、それらが書きとめてきた歴史を学校で勉強するけれども、さらにいくつかのすぐれた書物も読んで、人間の歴史を知る必要がある。歴史書を読むのは楽しい。けれども、ただおもしろがって物知りになるだけではない。人間がどんなことをしてきたか、人間がどんな者かを知ることが大切なのだ。そうすれば、世の中がこれからどうなるかを考える手がかりが得られるだろう。君たちが何かをしようとするとき、どのように行動すればよいか考えるヒントを与えてくれるだろう。

おじいさんが、ときたま話している昔話を思いきり広げて語ろうとするのは、そういう歴史の学び方を君たちに伝えられるかもしれない、と思うからだ。もちろん、おじいさんは歴史をあんまり勉強したのではないから、大したことはできないけれど、年の功というのがあるから話してみようと思う。でも、話として適当な分量というものがあるだろうから、多くのことを省略してまとめる。だからこの物語には足りないところがたくさんある、ということをお気にとめておいてほしい。

さて、『平家物語』を語った琵琶法師ほど、おじいさんの語りはうまくないけれど、君たちの方は気短にならないで、百一夜物語を聞くぐらいのつもりで、ゆっくり聞いてくれたまえ。もちろん、話はおもしろくなければいけないね。君たちが耳を傾けることができるように、せいぜい頑張ってみよう。

できるかぎり聞いて分かりやすい言葉を使いたいが、文字から意味を理解できる漢字の熟語も使うことにする。言い換えのむづかしい言葉はそうしよう。もし読めない漢字が出てきたら、年上の人に聞いてくれたまえ。辞書を引く習慣も大事だね。

今では、インターネットにいろいろな情報が出ていて、たとえば Wikipedia などから手軽に知識を得ることができる。しかし、正しく利用する鉄則は、インターネットを見る時間をできるだけ少なくすること！情報をじょうずに集めて、器用にまとめて発表するのではだめだよ。世の中の情報にはあやまりがあるかもしれない。コンピュータとスマートフォンを切って、自分でよく考えることだ。時間と力があるなら、よい書物を読むのがいいだろう。そうして初めて、知識を自分のものにできる。これから語る話に疑問を感じたり、もっと知りたいことが出てきたりしたら、そのようにしてみたらよいだろう。

孫に語る歴史 目次

上 巻

はしがき

第1章 歴史のあけぼの

- | | | |
|--------------|-------|---|
| 1.1 宇宙史の中の地球 | | 1 |
| 1.2 生物史の中の人類 | | 8 |

第2章 文明のはじまり

- | | | |
|-------------------|-------|----|
| 2.1 生活と社会と文化のはじまり | | 21 |
| 2.2 文明社会のはじまり | | 33 |

第3章 古代 47

- | | | |
|-----------------------------|-------|----|
| 3.1 西アジアとヨーロッパと北アフリカ | | 53 |
| 3.2 東アジア、インド亜大陸、
日本列島の古代 | | 73 |

第4章 中世前期

- | | | |
|----------------------------|--|-----|
| 4.1 ヨーロッパ、
イスラーム世界、南アジア | | 89 |
| 4.2 東アジアの枠組み、日本の古代後期 | | 111 |

第5章 中世後期

- | | | |
|-----------------|-------|-----|
| 5.1 ヨーロッパ、西アジア | | 131 |
| 5.2 中国の成熟、日本の中世 | | 150 |

下 巻

第6章 近世前期

- 6.1 ヨーロッパの変容、
西アジアとインド亜大陸 . . . 181
- 6.2 中国の近世前期、
琉球、日本の近世への移行 . . . 202

第7章 近世後期

- 7.1 西洋の発展と啓蒙、西南アジアの苦境 223
- 7.2 中国と日本の近世 . . . 238

第8章 近代前期

- 8.1 産業の発展と市民社会の成立 . . . 255
- 8.2 アジアと日本の近代化の苦闘 . . . 279

第9章 近代後期

- 9.1 近代の歩み、帝国主義、世界大戦 299
- 9.2 近代文明の達成したもの 333

第10章 現代

- 10.1 世界システムの歩みと現代の文明 339
- 10.2 全地球がつながった世界 368

あとがき

